

平成 28 年度 第2回西蒲区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成29年1月25日(水) 午後3時30分から午後5時まで
会場	岩室地区公民館 1階 講堂
出席者	西蒲区自治協議会総務部会委員 9名 西蒲区小学校長会代表、西蒲区中学校長会代表 教育委員:織田教育委員、上田教育委員 事務局:教育総務課長、地域教育推進課長、学校支援課長補佐 巻地区公民館長、西川図書館主任、西蒲区教育支援センター所長 教育総務課主査、西蒲区教育支援センター主任、西蒲区教育支援センター指導主事
傍聴者	1名
議 事	<ol style="list-style-type: none">1 開会2 教育委員挨拶(上田教育委員、織田教育委員)3 地域と学校の連携による教育の推進について (情報提供)<ul style="list-style-type: none">・地域と学校パートナーシップ事業, 地域と学校ドリームプロジェクト, ウェルカム参観日について (地域教育推進課長)・大好きにいがた体験事業, 防災教育 (学校支援課課長補佐)・学・社・民の融合による人づくり, 地域づくりの推進 (巻地区公民館長)・図書館だより, 「うちどく」の紹介 (西川図書館主任)・小学校の取組について (巻北小学校長)・中学校の取組について (岩室中学校長)4 意見交換(司会 西蒲区教育支援センター所長)
自治協委員	<p>家庭でも地域でも、道徳教育に対する学習支援活動の関わりの低さを心配しています。地域全体にそういうことが言えるのではないかと思います。</p> <p>まず、今の社会は児童生徒をはじめとする子どもを取り巻く環境は、いじめや虐待、あるいは自殺といった、いたましい事件が多くなっているわけです。その要因についてはいろいろあると思うのですが、一つは家庭環境にあるのではないかと思います。昔から言われている三つ子の魂百までという格言にあるように、子どもの言葉や生活習慣の基本は、だいたい3歳から5歳頃までに形成されると言われています。この大切な幼児期の家庭教育をおろそかにすると、やはり精神的に不安になったり、非行などに結び付くという、専門家もそういうことを指摘しています。子どもは家庭で、親の会話、働く姿など、親の姿を見て育っていきませんが、家庭が人間形成の最初であるということは当然なことであります。しかし今の子どもを持つ親たちは道徳とか、あるいはしつけなどについて十分な教育を受けないまま親になっている人が多くなっているのではないかという感じがするわけであります。そのために家庭の教育力が低下して、さまざまな問題を起こしているということではないかと思っております。</p> <p>また、親の関心事が学校教育だけに集中して、子どもの成長期の基盤である家</p>

庭教育がなかば置き去りにされているという、道徳とかしつけなどについて、家庭がその役割を保育園であるとか学校に求めている部分があるのではないかという感じがするわけです。

そこで、教育委員会として、社会教育の中での家庭教育の扱いをどのように考えておられるのか。戦後の長い歴史の中で、家庭教育は変わってきたと。その要素にはいろいろあるわけですが、現実としては家庭教育が非常に弱い、機能が弱くなっている。特に道徳としつけの問題が心配されているわけです。

道徳ということになりますと、家庭の部分だけではなくて一般行政の部分もありますし、教育行政の分野の両方あるのですが、今の仕組みは縦割り行政で、そういうところに弊害もあるのではないかと考えております。

公民館活動の中での、いわゆる社会教育の分野での道徳と、学校教育の中での道徳の両方がお互い補完し合いながら、子どもたちが健全に育っていくという両方の役割を持っているとは思っているのですが、その辺がなかなかうまくいかないのではないかという感じがしているものですから。その点について、どのようにお考えになっているかお聞かせいただきたい。

教育委員

新潟市小中学校PTA連絡協議会という組織があるのですが、先日、教育委員との意見交換を行いました。その際に出た意見ですが、新潟市は各学校に教育コーディネーターが配置されているので、PTAの役割も薄れてきました。今後は、家庭教育という、PTAを通して子どもと一緒に学べることを考えたいという意見が出ています。こういう団体(PTA連合会)とも協力できるのではないかと考えます。

今は核家族化が進んで、若い世代の人がいきなりお父さん、お母さんになられて、どうやって子どもを育てようかという知恵がなかなかなく、学校に丸投げの現状ではないでしょうか。今後はPTA連合会などの団体を通じ、親も一緒に成長できるかわかりができたらと考えているので期待したいと考えます。

教育委員会
事務局

道徳教育については家庭教育が大事だと認識しており、公民館事業として、生まれてから成長期までのそれぞれの段階に合わせ、保護者に対して意見交換や情報交換、また悩み相談などの場を提供させていただいています。

各地区すべての公民館で実施されているわけでないので、それぞれの公民館で実施できるよう検討していく必要があると考えています。

自治協委員

これは相当前から問題であります。保母さんたちの話で、何十年も前の話で恐縮なのですが、子どもを育てられないのでしつけを保育園に頼っていると。保母さんは非常に大変な思いをしていたわけです。それが今度、そこが終わると学校にお願いしているという、いわゆる家庭の道徳、しつけが自分のところでどうにもならないので、保育園や学校に頼むという、まだそれがずっと今も続いているのだろうと思います。

そういうことから、子どもたちが十分育っていないくて、やはりいろいろなことに問題が出ている。一方でいじめも、そんなものに負けないくらいの力を付けるくらいの教育も大事なんでしょうけれども、やはり根本はどこにあるのか。これは家族制度の崩壊から始まってきている面もあるんでしょうけれども、長い歴史の中で、こういうふう

教育委員会 事務局	<p>になってしまったのはしょうがないにしても、やはりこれからは人間教育といえますか、しっかりと子どもたちを育てて、そしてその地域の将来を担う、日本の将来を担うという子どもたちを、今から育てていかないと、その先が心配になります。</p> <p>行政もそうですけれども、両者で取組んでいただきたいと希望しています。</p> <p>子どもたちの人間教育、生き方教育がたいへん大事だと思っています。道徳的な学習は、道徳の時間だけでなく、それ以外のあらゆる場でも学校は行っていると考えています。</p> <p>グラフの中で道徳の学習支援が少ないというのは、決して一生懸命やっていないということではありません。学校では、例えば特別活動であれば引率をしたり、読み聞かせであれば自分から読み聞かせたり、算数であれば問題を一緒に考えてあげるとかというところでご支援いただいています。</p>
校長会代表	<p>道徳というのは、例えば自分が特異な経験をされているので、それについてお話をさせていただくなど、そういうところで支援していただいているものですので、数が少ないからといって、これを疎かにしているということではないと考えています。</p> <p>学校でも、子どもたちにいかにして生きる喜びや、将来の希望を考えていくかということについては、道徳もそうですし、キャリア教育でも、そういうことが行われているのではないかと思います。いわゆる自分の生き方を子どもたちに問うてみせるというところで、こんなふうになりたいとか、こんな生き方がいいとか、こうしてはいけないのだとか、こういうことを目指そうとか、そういうことを十分考える場はあるのではないかと思います。</p> <p>パートナーシップ事業の一つには、学校を地域の学びの拠点として、親同士で話し合うなどの機会を取り入れることができます。公民館と同様に身近な学校でも、親と子が学べる事業を進めていけたらと考えています。</p>
司 会	<p>中学生になると親も子もなかなか変わらないので、小さいときの道徳教育は重要と考えています。</p>
自治協委員	<p>子どもたちの最大の環境は親御さんたちです。親御さんへのアプローチも含め、自治協のみなさんのアドバイスをいただきながら、いっそう地域と学校の連携が充実していければと考えます。</p> <p>地域と学校、そして社会教育機関が連携して、子どもたちと地域と学校を繋げていることを実感し、たいへん心強く思いました。</p>
司 会 自治協委員	<p>パートナーシップ事業のアンケートの結果を拝見し、地域が学校とつながり、何かをしていく上で欠かせないのが、事業に対しての学校の先生方の意識だと感じています。グラフから、その部分が素晴らしいと思いますし、このままの意識と理解のもとで進んで行ったならスムーズに発展していけると期待しています。</p> <p>学校とのかかわりの中で感じたことをお聞かせください。</p> <p>幼稚園から保育園、小・中学校の行事に参加させていただいています。</p> <p>私の地域では、保護者も地域の方も大勢参加しています。自分たちが学校とのかかわりにいろいろな形で参加し充実しているからこそ、子どもたちがどんな形で大きくなったのか、何かを頑張っているのかなどそういう思いがあるので、みなさんが</p>

参加できていると思っています。

ただ、役職とかボランティアとか、頼みやすい方にばかり偏った人選になってしまうことがあるようです。いろいろな人たちからもっと参加してもらい、地域全体で盛り上がっていく、底上げができるような地域であったり、教育であったり、かかわり合いであったりすると、非常になお一層いいと思います。

ボランティアは、なかなか手がないという認識を持っていますが、やはり子どもたちが本当に元気よくあいさつをしてくれたり、いろいろな活動に参加するのを見てみると、自分も大変なのだけれども、できることがあったら何でもしてやろうとか、そういう思いが出てくると思います。そのきっかけを我々が上手につくっていかねばならないのかなということを常々思いながら、先生方の頑張りにも期待しつつ、地域のかかわりをみんなで大切にするためにも、多くの人に広く活動を進めていきたいと思っています。

司 会 ご協力いただける方の固定化も課題としてあるようです。みなさんの地区で手立てのようなものなどありますでしょうか。

自治協委員 角田地区では地域教育コーディネーターがコミ協の役員になるということで、学校と地域とのかかわりがうまくいっていると思っています。また、27年にコミュニティセンターができ、カーリンコンとか料理とか、子どもたちと一緒に活動し、非常に地域と学校とがうまくいっています。

司 会 地域教育コーディネーターの役割がうまく機能している例ですね。

自治協委員 昨今、子どもの貧困ということが言われていますが、農村地域である西蒲区ではある意味豊かなところもあって心配ないかと思っていますが、実は知らないだけで、実際のところはあるのではないだろうかという危惧もしています。

というのも、家庭の形態も随分変わってきていて、すべてではないでしょうけれども、一人親で働かなければいけない家庭もあります。漆山地区は農村地区ですから、昔は子育てするときには、じいちゃん、ばあちゃんが自分の子を見ていたと。ところが今はひまわりクラブの狭い建物の中に、入り切らないくらい子どもが集まっていると考えると、家庭の様子も、昔ながらの地域と少し変わってきているのかなということも思います。

統計によれば6人に一人がそういう対象と聞いています。市の中心部のほうでは、例えば青陵大学の学生などが子ども食堂を立ちあげて活動しているということも聞いています。私の知り合いも新発田で子ども食堂を立ち上げて、夏休みになると子どもの体重がガクッと減るので、それは子どもの学力にも響いていくということから、何とか地域で子どもを守らなければいけないので必死なのだよと聞かされるのです。西蒲区の現状はどうかお聞かせください。

司 会 社会問題である子どもの貧困について、子どもたちの学校生活に影響しているか学校現場で感じていただけるかどうかでしょうか。

校長会代表 どの学校でも支援が必要なご家庭があります。それについて区を挙げて福祉事業に取り組んでいただいています。特に巻地区には、そういう施設ができたということで運営している事業があるかと思っています。区だよりに掲載されている地域の茶の

間もありますので、それからお年寄りについても高齢者の見守りという事業もやられているということを学校も掌握しております。

子どもたちは区の中でいろいろな事業が行われていることを意外と知っていますが、親世代がなかなか区だよりを見ていなかったりで、事業がわからなかったりすることがあります。そうすると参加もできなくなってしまいます。

そんな中で西蒲区ではおじいちゃん、おばあちゃんとか、退職された方とかが、学校のボランティアの仕事をしてくださり、支えてくださるのはすごいことです。

司 会

子ども食堂みたいなものをすぐ作なければならないという切実な思いは、学校現場にも支援センターにも今はないです。

自治協委員

自治会長をやっていたときにはパートナーシップの学校評価にかかわり、こういうふうに動いているのだな、こういうところが問題だな、こういうところがうまくいっているかなというのは自分なりに分かったのです。現在は朝、地域から学校まで毎日歩いております。子どもたちと歩きながら話をしたりするので、なるほど、今の子どもたちはこういうふうな考えがあるのだなと気付いています。

朝、鞆を忘れてきた子どもがいて、取りに行かなければだめだということが非常に重荷になったみたいで、泣き泣き取りに行って戻ってきたと。その話でひとこと、一緒に行くみんなに、このことについては学校で変なことを言ったりしてはだめだぞと。みんなもそういうことはよくあるのだからと。地域の大人として、そういう言葉で補ってやることはできるのですけれども。

いじめの問題で、5、6年前は地域の学校でゼロだったのですが、今年度の11月までで42件など出ています。どういうふうに捉えればいいのか分からない数字なので、こんなに多いのかなと単純に思いました。家の人は仕事で、地域と学校の結び付きではなかなか出てこられないのですが、結構学校と地域が精神的にはサポートしている地域だと思います。そんなところでも、こんなものが出てくるということについては、やはり注意をしていかなければいけないと今思っているところです。

いじめが出てくる背景を打破するために、小学生に福祉教育を行うということですが、福祉教育がいじめを減少させていく、子どもたちが地域と結び付いてやさしさを育てるといった教育効果があるということなのではないでしょうか。

教育委員会
事務局

道徳教育にもつながることだと思いますが、子どもたちがそれぞれお互いを認め合って、いろいろ違いがあることについて分かり合うような心の育成が重要であると感じています。当然、我々もただ単にいじめが起きたときの対応だけにとらわれず、そういう心の醸成に努めることが、今後の教育では重要なのだと思っています。

教育委員会
事務局

いじめの数自体は、5年前と今とではほとんど変わっていないと思います。平成25年にできた法律の中で、いじめの定義が変わったということでいじめのカウントが増えたと認識しています。

今まで一般的にいじめというと、かなり長期間にわたって相手のことを叩いたり、悪口を言い続けたりとか、そういうものをいじめと捉えておられたかもしれないのですが、法律では、1回でもぼんと叩かれて、その子が嫌だと思ったらそれはいじめです。一言でも何か悪口を言ったときに、嫌だ、辛いと思ったらいじめです。今

は行為というよりも、いじめを受けた側がどう思ったかでカウントしています。そうしますと、いじめられていますとまで言わなくても、こういうことをされました、辛かったですという話があれば、すべていじめとなるのです。

どれだけいじめの件数が増えているかといいますと、昨年度末、新潟市のいじめが小中学校を合わせて1,777件でした。1年間で1,777件だったのですが、今年度は4、5、6、7月の4か月だけを見ても2,400件です。それはそれだけいじめと思われることを先生方が発見している、もしくは子どもたちが伝えている、親御さんが言っているということになります。今までは見過ごされていたものを積極的に見ようと今は動いてきているのです。一見するといじめの数が増えたと思われるのですけれども、発見されたいじめの数が増えているとお考えください。発見しなければ、いじめに対して対処することはできません。まずはそういう苦しみを小さなうちに見付けることが大事になってきます。

今まで見過ごされていたものを、積極的に見ようという気持ちが学校の中にあらわれてきていると感じています。

今、新潟市としていじめをしっかりとらえよう、いじめの認知をしっかりと取り組んでいるところです。

司会

登校の子どもたちの様子からサインを見逃さずに積極的に子どもたちにかかわっていただきまして、これこそ地域の教育力だなどお話を聞いて思いました。ありがとうございました。

自治協委員

11月28日に市内3番目の地域の茶の間をオープンしたところです。昨日も講演会がありまして、コーディネーターの方の話も聞きましたけれども、これからはお年寄りばかりでなく、子どもを持つ若いお母さん方の悩みを聞くなど、住民が何を欲しているかを取り上げていかなければと感じています。

夏休みや冬休みに、子どもたちにも参加してもらって、遊びながら、ご飯を食べながら、おじいちゃんおばあちゃんに接していただくことで、子どもたちにとってもいい影響があるのではと考えています。

自治協委員

お年寄り対象の事業を実施するとき、出る人はたくさん出てくれるのだが、出ない人はいくら声をかけても出てくれないことがあります。子どもたちもそういった傾向があるのかと思います。先生方からも、子どもたちに働きかけていただき、参加する子どもたちになってほしいと思います。

自治協委員

パートナーシップ事業でのたくさんの取組に感動しています。今後、また新しくやってみたい事業のようなものがあれば聞かせていただきたいと思います。

校長会代表

学校と地域の連携を図るために、地域の方から来ていただくだけでなく、学校から出ていきたいという思いがあるが、交通手段がネックになっています。

公共交通が脆弱な中、スクールバスの特別使用をさせていただいてきた。例えば、来年度、中学校で岩室地区の「少年の主張発表会」を開催するにあたり、小学6年生の参加も考えているが、スクールバスがないと実施できません。

地域と学校をつなぐという意味で、スクールバスの活用を充実してほしいと思います。

校長会代表	<p>小学校で、地域をフィールドに地域の学習をするときに、少人数のグループで活動することがあります。そういったときに、交通手段がなく、活動が限られることがあります。</p> <p>鴻東小学校には4台のスクールバスがあります。岩室地区にもあります。これを活用できれば、子どもたちも地域に出て、地域を学ぶ活動ができます。西蒲区はどうしても交通手段が限られてしまいます。</p> <p>昨年、西蒲区の教職員で地域のお宝マップと「西蒲ノート」を作りましたが、子どもたちが、自分たちで地域のお宝を付け加えられるようにしてあります。</p> <p>西蒲区には豊かな自然環境とたくさんの伝統や歴史があります。</p> <p>子どもたちが地域に出かけこれらを学ぶことができるよう、交通手段の充実が欠かせません。</p>
自治協委員	<p>岩室地域では、学校とコミュニティ協議会と連携しながら、様々な活動を行っています。地域と学校パートナーシップ事業でもスクールバスを使ってきました。今後、これがなくなることがないようにお願いしたいと思います。</p>
司 会	<p>事業の充実には、西蒲区の特性も踏まえ、いろいろな条件も必要ということを承りました。事務局で検討が必要と考えます。</p>
教育委員	<p>貴重なご意見、本当にありがとうございました。</p> <p>西蒲区は、地域の方々が子どもたちを包み込むように育てているという現状も十分、かなりハイレベルなのです。だからこそ、どこの地域の活動に人が出てこないの困るとか、ボランティアが固定化されて人が足りないとかというぼやきではなくて、もっと大きな視点に立って、家庭の教育力が低下しているのではないか、それをどうやって支えたらいいか。学校任せにするのではなくて、社会教育として何かできるのではないか。そのうえ、地域として何かできるのではないか、地域の人とのつながりをもって全体を底上げできるのではないかと、非常に前向きな、そしてハイレベルなお話がたくさん伺えたので、本当に今日、この会議はすばらしいなと思ってお伺いさせていただきました。</p> <p>最後のスクールバスについて、その切実な悩みは非常によく分かります。私も南区出身なので同じように交通空白地域です。子どもたちがどこへ行くにも困る地域です。その気持ちはよく分かります。よい方向に向かうことを祈っております。ありがとうございました。</p>
6 閉会	